都市計画
交通システム/公園

R5 11

都市計画法に規定される地域地区の名称とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

- 高度利用地区
  - 市街地の合理的かつ健全な高度利用を図るため、都市計画に建築物の高さの最高限度又は最低限度を定めることができる地区 ✕
- 市街化調整区域
  - 無秩序な市街化防止と計画的な市街化を図るために定められる、市街化を抑制すべき区域
- 生産緑地地区
  - 市街化区域内にある農地等において、公害又は災害防止、農林漁業と調和した都市環境の保全等の良好な生活環境の確保に効用があり、かつ、公共施設等の敷地の用に供する土地として適していると指定された地区
- 景観地区
  - 市街地の良好な景観の形成を図るため、建築物の形態意匠の制限、建築物の高さの最高限度又は最低限度、壁面の位置の制限、敷地面積の最低限度について、都市計画に定めることができる地区

R5 10

交通の面からみた都市計画に関する用語の説明として、最も不適当なものは、次のうちどれか。

- 1．MaaS（Mobility as a Service）とは、自動車利用者の交通行動の変更を促すことにより、都市や地域レベルの道路交通の混雑を緩和するための手法のことである。 ✕
- 2．TOD（Transit Oriented Development）とは、公共交通機関の利用を前提として、過度に自動車へ依存しない持続可能な都市を実現する手法のことである。
- 3．ITS（Intelligent Transport Systems）とは、最先端の情報通信技術を用いて、交通事故、渋滞などの道路交通の問題解決を目的に構築する交通システムのことである。
- 4．LRT（Light Rail Transit）とは、低床式車両の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する軌道系交通システムのことである。

R5 3

建築や都市に関する著作物とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

- 『広場の造形（芸術的原理に基づく都市画）』（カミロ・ジッテ、1889 年）
  - ヨーロッパ各地の歴史的な広場を分析することで、中世の街並みに起源をもつ自然発生的な都市空間の構成を再評価し、そのスケール感や空間感覚を学ぶことの重要性を主張した。
- 『装飾と犯罪（装飾と罪悪）』（アドルフ・ロース、1908 年）
  - 建築の快適性や有用性といった実用的側面を重視し、文化としての生活との有機的関連性を欠き、実用に資することのない表面的な装飾が不要であることを主張した。
- 『空間・時間・建築』（ジークフリート・ギーディオン、 1941 年）
  - 「空間」という概念を前面に押し出し、近代建築を西欧の建築の歴史的な流れの中にあらためて位置づけることを試み、近代建築のもつ特徴や理論の正当性を主張した。
- 『都市の建築』（アルド・ロッシ、1966 年）
  - 歴史上の建築を例に、曖昧さや複雑さのある建築の魅力を伝え、不整合性をもつ多様な建築表現の有効性を示し、単純化・抽象化されすぎた近代建築が建築の唯一の解でないことを主張した。 ✕

H25 10

都市計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1．**丹下健三研究室**による「東京計画1960」は、求心・放射型の都市構造の閉鎖性を否定し、都市軸の概念を導入することによって開放的な線形発展を可能にするという都市構造の提案である。
- 2．**バックミンスター・フラー**による「ジオデシック・ドーム」は、地球上の都市域が連担し、地球全体が都市のネットワークによって覆われるという世界都市を示す概念 の提案である。 ✕
- 3．**ル・コルビュジエ**による「輝く都市」は、地表面を開放し、空中に持ち上げた高層建築と道路の機能区分の明瞭さが特徴的な都市の再開発計画の提案である。
- 4．**T.ガルニエ**による「工業都市」は、住居地域を緑地帯によって工業地域から分離させたものであり、生活と労働の両面に対応した近代性を備える都市の提案である。

H26 10

都市計画及びまちづくりに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1．ニューアーバニズムは、住民参加を原則とした計画手法であり、アメリカをはじめとする諸外国や日本の住宅地開発で採用されている。 ✕
- 2．土地区画整理事業は、都市計画区域内の土地について、公共施設の整備改善及び宅地の利用の増進を図るために行われる、土地の区画形質の変更及び公共施設の新設又は変更に関する事業である。
- 3．フリンジパーキングは、都心部周辺に駐車場を整備し、都心内への車の流入の抑制を目的としたまちづくりの手法である。
- 4．LRTは、低床式車両の活用や軌道等の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性等の面で、優れた特徴を有する軌道系交通システムである。

R4 10

都市公園に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1．防災公園は、地震災害時に復旧・復興拠点や生活物資等の中継基地等となる防災拠点、避難者を収容し保護する避難地等の機能を有するもので、地域防災計画等に位置づけられている。
- 2．広域公園は、都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とし、都市規模に応じ 1 か所当たり面積 10～40 haを標準としている。 ✕
- 3．地区公園は、主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とし、誘致距離 1kmの範囲内で1か所当たり面積 4 haを標準としている。
- 4．街区公園は、もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とし、誘致距離250mの範囲内で1か所当たり面積 0.25haを標準としている。

R3 10

施設を計画・運営する際の官民連携等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1．指定管理者制度とは、文化会館や保育所、公園等の公の施設の管理運営を、ノウハウを有する民間事業者等が行うことで、住民サービスの質の向上を図り、施設設置の目的を効果的に達成するための制度のことである。
- 2．街なみ環境整備事業とは、住環境の整備改善を必要とする区域において、地方公共団体及び街づくり協定等を結んだ住民が協力して、美しい景観の形成、良好な居住環境の整備を支援する事業のことである。
- 3．TMOとは、商業・業務機能が集積した地区において、「中心市街地活性化基本計画」等をもと に活性化事業等を推進する民間主体の組織のことである。
- 4．サウンディング型市場調査とは、地方公共団体等の事業完了後に、住民との意見交換等を通し、事業に対しての様々な意見や改善点を把握する調査のことである。 ✕

R2 10

交通手段を考慮した都市計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1．セミモールは、都市部や商業地などで歩行者空間を充実させたモールにおいて、一般車両の乗り入れを禁止し、路面電車やバスを通行させるものである。 ✕
- 2．キスアンドライドは、出発地から公共交通機関の乗降所（駅やバス停等）まで家族等が自動車で送迎する交通形態のことである。
- 3．BRTは、バス専用道路などを活用して高い定時性を確保し、連節車両を用いることや停車時 間短縮の工夫を取り入れること等により、高い輸送能力を確保するバス交通システムである。
- 4．フリンジパーキングは、都市中心部の周辺に駐車場を整備し、そこから公共交通機関等により都市中心部までアクセスするシステムであり、都市中心部への車の流入の抑制等を目的とするものである。

R元 10

都市の再生、まちづくり等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1．インナーシティ問題は、都市の中心とその周辺の市街地における人口の減少と産業の衰退、地域の荒廃等のことである。
- 2．ブラウンフィールドは、土壌汚染の存在、あるいはその懸念から、本来、その土地が有する潜在的な価値よりも著しく低い利用あるいは未利用となった土地をいう。
- 3．二地域居住は、都市住民が農山漁村等の地域にも同時に生活拠点をもつこと等をいう。
- 4．パークアンドライドシステムは、中心市街地をバリアフリー化して車椅子や電動スクーター等を貸し出し、歩行困難者の外出の機会の拡大だけでなく、市街地の活性化を促す仕組みの一つである。 ✕

H30 10

都市再生の事例に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1．小布施町（長野県）においては、明治時代に建築された黒漆喰仕上げの建築物を保存・改装し、この建築物を核とした街並み「黒壁スクエア」を中心にして観光振興によるまちづくりを行っている。 ✕
- 2．富山市（富山県）においては、持続可能なコンパクトシティの実現を目指し、LRT（Light Rail Transit）を導入することで、公共交通の活性化、公共交通沿線地区への居住促進、中心市街地の活性化等を図っている。
- 3．横浜市（神奈川県）においては、「クリエイティブシティ・ヨコハマ」の実現を目指し、歴史的建造物や鉄道高架下等を活用した文化芸術活動を支援するための拠点づくりを行っている。
- 4．環状第二号線新橋・虎ノ門地区（東京都）においては、道路の上空及び路面下において建築物等の整備を一体的に行うことができる「立体道路制度」を活用し、この地域における居住機能や文化・交流機能の導入、業務機能の質の高度化等を図っている。

H29 10

都市計画・都市デザインに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1．**後藤新平**らが主導した関東大震災からの「帝都復興事業」においては、鉄筋コンクリート造により不燃化・耐震化した復興小学校を建設し、隣接して小公園を整備した。
- 2．**ル・コルビュジエ**の「パリのヴォワザン計画」においては、一部の歴史的建造物を保 存しつつ、古い街区や建築物を大規模に取り壊し、幹線道路等を整備したうえで、 超高層ビルに建て替える提案をした。
- 3．**丹下健三**の「東京計画 1960」においては、人口の過剰集中による諸問題に対し、東京湾を全面的に埋め立て、放射状の都市構造をつくりだす提案をした。 ✕
- 4．**フランソワ・ミッテラン**らが主導したパリの都市計画である「グラン・プロジェ」に おいては、フランス革命 200年を記念して、ルーブル美術館の大改修やオルセー駅舎の美術館への転用等、拠点整備による都市の再生を進めた。

H27 10

都市の再生に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1．ロンドンのドックランズ再開発計画は、港湾機能の低下によって衰退したテムズ川沿いの旧港湾地区に複合機能をもたせたプロジェクトである。
- 2．ベルリンのポツダム広場再開発計画は、第二次世界大戦とその後の東西分断によって長年更地であった敷地に複合機能をもたせたプロジェクトである。
- 3．ソウルの清渓川（チョンゲチョン）復元事業は、首都の中心部を貫通する高架道路を撤去し、かつての河川水辺空間を復元させたプロジェクトである。
- 4．イタリアのウルビーノ都市基本計画は、炭鉱の産業遺産を再利用しながら都市全体 を再開発したプロジェクトである。 ✕

H28 10

都市計画・都市デザインに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1．高蔵寺ニュータウン(愛知県)は、高度経済成長期に名古屋圏に流入し、増加した人口の受け皿として、「近隣住区」等の都市計画理論に基づき開発された我が国で最初のニュータウンである。 ✕
- 2．筑波研究学園都市(茨城県)は、東京への一極集中を緩和するために、職住一体の「田園都市」として構想されたものである。
- 3．川越一番街(埼玉県)では、「パタン・ランゲージ」に範をとった町づくり規範により、歴史的町並みの景観の保全が実践されている。
- 4．くまもとアートポリス(熊本県)は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境・建築文化等の向上を図るために、「コミッショナー」が設計者を推薦する手法が採用された事業である。

用語

- 指定管理者制度
- 街なみ環境整備事業
- TMO
- サウンディング型市場調査
- ニューアーバニズム
- 土地区画整理事業

交通システム

- セミモール
- キスアンドライド
- BRT
- フリンジパーキング
- パークアンドライドシステム
- LRT（Light Rail Transit）

都市の再生

- インナーシティ問題
- ブラウンフィールド
- 二地域居住

都市の再生（実例）

- 「黒壁スクエア」 滋賀県長浜市
- LRT（Light Rail Transit） 富山市（富山県）
- 「クリエイティブシティ・ヨコハマ」
- 「立体道路制度」 環状第二号線新橋・虎ノ門地区（東京都）
- ワンセンター方式 高蔵寺ニュータウン(愛知県)
- 「田園都市」 筑波研究学園都市(茨城県)
- 「パタン・ランゲージ」 川越一番街(埼玉県)
- 「コミッショナー」 くまもとアートポリス(熊本県)
- ロンドンのドックランズ再開発計画
- ベルリンのポツダム広場再開発計画
- ソウルの清渓川（チョンゲチョン）復元事業
- イタリアのウルビーノ都市基本計画

都市デザインと建築家

- 「帝都復興事業」 後藤新平
- 「パリのヴォワザン計画」 ル・コルビュジエ
- 「輝く都市」 ル・コルビュジエ
- 「東京計画 1960」 丹下健三
- 「グラン・プロジェ」 フランソワ・ミッテラン
- 「ジオデシック・ドーム」
  - バックミンスター・フラー
  - 最小の資源で最大のパフォーマンスを追求する
- 「工業都市」 T.ガルニエ

近隣住区

- アーサー・ペリー
- ①規模
- ②住区界
- ③空地
- ④公共施設
- ⑤商業施設
- ⑥住区内道路

ラドバーンシステム

まちづくり

- エリアマネジメント
- コンパクトシティ
- CPTED
- トランジットモール

土地区画整理事業

- 減歩
- 換地

近隣街区

- 8,000～10,000人
- 規模：小学校
- 公共施設

市街地再開発

- 一種
  - 権利変換方式
- 二種
  - 用地買収方式

クルドサック

- ペデストリアンウェイ

特定街区制度

- 容積率
- 市町村

総合設計制度

- 壁面の位置
  - 建築の高さ
- 公開空地
  - 容積率の制限
- 車線制限の緩和
  - 高さ制限

都市公園

防災公園

- 地震災害時に復旧・復興拠点や生活物資等の中継基地等となる防災拠点
- 避難者を収容し保護する避難地等の機能を有するもの

広域公園

- 市町村の区域を超えて広域のレクリエーション需要に対応
- 面積50ha以上の大規模な公園

地区公園

- 誘致距離 1kmの範囲内で1か所当たり面積 4 haを標準

街区公園

- 誘致距離250mの範囲内で1か所当たり面積 0.25haを標準